# 委員会活動報告

## アーバントリップ実行委員会

### 第74回アーバントリップ見学記

### 「取り組む姿勢」

小川　成洋

■ 早春の日差しが心地よい土曜日に、緑豊かな埼玉県西部を縦断するバストリップが行われました。毎回、個人では訪問し難い新しい建築を、設計者の解説とともに見学でき、感謝しています。今回もテーマ性の明確な建築ばかりで、堪能できるツアーでした。

■ 飯能図書館

飯能市は林業の盛んな地域であり、かつて西川材とよばれる木材を江戸に提供し、今でも森林文化都市と宣言するなど、林業に対する愛着は深い。木材を活かした公共建築という要望に、単純に全て木造とするのではなく、柱のみ丸太材を用いて、屋根や梁は鉄骨造として答えている。そのため、屋根は軽快となり、空間は開放感が得られた。シンプルな天井面により、幹から枝分かれする丸太の列柱がより強調され、この木材が育った森林の中にいるような空間となっている。ここで使われたような樹齢100年近い丸太は、まだ山中に沢山あり、以外に安価と聞き、いつか使用したい誘惑を感じさせる建築だった。

飯能図書館

■ ヤオコー川越美術館

個人が収集したある一人の画家だけの作品を展示する、極めてプライベート性の高い美術館。雑誌によれば、この建物は、敷地が決まる前から正方形の外形と決めてスタディが始まっている。先に自らの枠を設けることで、その中で何が可能か、その挑戦は、この画家：三栖右嗣が、あくまでもリアルな具象の中で、生命を描こうとした姿勢に、建築家が応えようとしているのか。様々なスタディの結果、正方形を4分割するシンプルなプランに落ち着いている。ただ、わずかに傾き、あるいは湾曲する壁の存在が、空間に流動感を与える。ストイックなプランニングに対し、対極的に自由に造形された屋根＝天井は、光や色彩とともに、4つの部屋をまったく異なる空間としている。展示される絵画と呼応するような空間は、画家と建築家のコラボレーションによるインスタレーションとなっている。

ヤオコー川越美術館

■ 大東文化大学東松山キャンパス　M－COMMONS

埼玉の丘陵地に広がる緑豊かな大学キャンパスの、2010年から始まる再整備計画で、自然環境を活かし、空調設備に頼らない居住環境の確保をテーマとしている。興味深いのは、初期では機械的なスライド断熱機構を用いた、自然エネルギー活用だったが、逐次計画が進むにつれてシンプル化し、この5号館では、機械的な手法ではなく、断面計画や外皮性能など建築的な手法により、空調をしない居住環境確保を実現している。テーマに沿って、より発展していく手法の展開に、長期に渡る努力の成果が感じられた。また、より和風を感じさせるのも、面白い。

地場の林業を表現して欲しいとの要望に答えた図書館。生命を見つめた画家に対峙するための空間を求めた美術館。自然あふれるキャンパスで、自然を活かした居住環境整備を試みた大学校舎。今回のツアーは、三者三様ながら、テーマ性が明確で、真摯に対応した結果が現れ、好感と挑発の感じられる建築でした。

大東文化大学　M-COMMONS

FORUM